

第 39 回 日本医療学会公開シンポジウム開催報告書

実行委員長

静岡県立大学薬学部 賀川義之

平成 22 年 9 月 12 日（日）に静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」11 階会議ホール「風」において、日本医療薬学会主催、静岡県立大学共催、静岡県病院薬剤師会および静岡県薬剤師会後援で第 39 回日本医療学会公開シンポジウムを開催しました。静岡県内だけでなく、東京都や名古屋市など遠方からの参加もあり 123 名の参加者となりました。

本シンポジウムのテーマは、「医療現場の疑問を形にする」としました。薬剤師が日常業務における疑問点をどのような方法で検討し、その結果をどのように学術論文にまで高めるかを若手薬剤師の体験報告および「医療薬学」の編集委員長をされていた奥田真弘先生による特別講演で学びました。多くの病院では臨床薬学研究を行ったり、学術論文を作成する際に指導者がいないのが現状かと思えます。今回のシンポジウムでは臨床薬学研究を成果としてまとめる際に必要な学術論文を作成する上での基本と留意事項に焦点を絞りました。

まず、浜松医科大学医学部附属病院薬剤部長・教授の川上純一先生に座長をお願いして、若手薬剤師による研究開始から論文掲載までの体験報告を掛川市立総合病院薬剤室の井出直仁先生、山田赤十字病院薬剤部の永田裕章先生に講演していただきました。両先生には一般病院の薬剤師として、臨床薬学研究の開始から研究計画の組み立て、結果の解釈、論文の作成、投稿時の査読者とのやりとりなどの経験をお話しいただきました。

特別講演には三重大学医学部附属病院薬剤部長・教授の奥田真弘先生を迎え、「医療薬学領域における論文執筆と投稿に関する留意点」についてご講演いただきました。奥田先生の講演では、「医療薬学」誌の編集に 7 年余り携わった経験を踏まえ、論文執筆に関するルールや事例を紹介していただき、採択される論文を執筆するための留意点について具体的例を挙げて詳しく説明していただきました。これからの薬剤師は EBM に基づきエビデンスを用いて最適な薬物治療を提供する（研究に対する第三者的）立場だけでなく、自らエビデンスを造り発信することで薬物治療に貢献する（研究の当事者）立場も期待されています。今回の公開シンポジウムが薬剤師によるエビデンス造りの一助になったものと確信しています。

最後になりましたが、本シンポジウムのご講演を快くお引き受けいただいた奥田真弘先生、永田裕章先生、井出直仁先生、座長の労をおとりいただいた川上純一先生、またご参加いただきました参加者の方々に深く御礼申し上げます。

日本医療薬学会 第39回日本医療薬学公開シンポジウム

1. テーマ：「医療現場の疑問を形にする」
2. 日時：平成22年9月12日（日）午後2時～4時30分
3. 会場：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」
11階会議ホール “風”（JR東静岡駅隣接）
〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4
TEL 054-203-5710(代表)
4. 実行委員長：静岡県立大学薬学部 賀川義之
5. 参加費：無料
6. プログラム
 - 14:00 開会の辞 シンポジウム実行委員長 賀川義之
 - 14:10 第一部
座長：静岡県病院薬剤師会会長
浜松医科大学医学部教授・附属病院薬剤部長 川上純一
若手薬剤師による研究開始から論文掲載までの成功体験報告
 - 1) 掛川市立総合病院薬剤室 井出直仁
 - 2) 山田赤十字病院薬剤部 永田裕章
 - 14:40 第二部
座長：静岡県立大学薬学部 賀川義之
特別講演
「医療薬学領域における論文執筆と投稿に関する留意点」
三重大学医学部教授・附属病院薬剤部長 奥田真弘
 - 15:50 第三部
総合討議
 - 16:25 閉会の辞
静岡県薬剤師会副会長・静岡県病院薬剤師会副会長
JA静岡厚生連静岡厚生病院 薬剤部長 松山耐至
7. 参加者総数：123名
8. 日本医療薬学会会員参加者：116名
9. 日本薬剤師研修センターシール（2単位）受領者：114名